



平成25年 3月22日

## 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業

### NO. 22076 間欠冷蔵処理によるイチゴの花芽分化促進技術の確立

H22年度より3年間「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」によって「間欠冷蔵処理によるイチゴの花芽分化促進技術の確立」に関する共同研究を実施しました。

間欠冷蔵処理は簡便で経済性の高いイチゴの花芽分化促進法として、現地実証試験を行った産地で急速に普及し、全国的に導入の動きが強まっています。

本成果の概要については、東京農工大学で開催される園芸学会の第15回日本イチゴフォーラム(3月24日 13:45~15:45, 東京農工大学小金井キャンパス講義棟1階 L0013)において発表します。

岡山大学農学部附属フィールド科学センターではH22年度より3年間「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」によって「間欠冷蔵処理によるイチゴの花芽分化促進技術の確立」に関する共同研究を実施しました。

簡便で経済性の高いイチゴの花芽分化促進法として新たに見出された手法である間欠冷蔵処理を実用技術として確立し、普及させるため、適切な処理温度、処理期間や処理時期ならびに品種による効果の違いについて検討しました。

その結果、①15℃冷蔵3日-自然3日の3回処理によって安定した効果が得られる②無処理苗の花芽分化期が‘女峰’程度の品種は8月25日頃、それより早い‘さぬき姫’は同20日頃、自然分化期が遅い‘さちのか’は同30日頃から処理を開始すれば安定した効果を得られることが明らかになりました。

現地実証試験を行った産地で急速に普及し、全国的に導入の動きが強まっています。

本成果の概要については、東京農工大学で開催される園芸学会の第15回日本イチゴフォーラム(3月24日 13:45~15:45, 東京農工大学小金井キャンパス講義棟1階 L0013)において発表します。

#### 共同研究機関

奈良県農業総合センター

香川県農業試験場

(独)農研機構 近畿中国四国農業研究センター

具体的な研究結果の概要は別紙のとおりです。

<お問い合わせ>岡山大学農学部附属フィールド科学センター  
大学院環境生命科学研究科(農) 主事・教授 吉田裕一  
086-251-8317(吉田)  
yyoshida@cc.okayama-u.ac.jp